

「いつまで遊んでるんやー!」。小学生の頃、1時間と決められたわが家ルールを破り、ゲームをし続ける母親から大目玉を食らった。今であれば「遊びじゃない。eスポーツの練習や」と食い下がらるだろうか。

パソコンや家庭用ゲーム機で腕前を競うeスポーツは近年、全国大会が催されプロ選手が現れるなど国内でも市民権を得つつある。湖国でも普及の動きがあり、県

# 淡海抄

## 遊びじゃない

立野洲高(野洲市)では県内高初の「eスポーツ同好会」が昨年設立された。顧問の小林太樹教諭は「家で1人でやるのではなく、学校でやることでメリットがある」と強調する。

教師の目が届くためプレー時間の管理や暴言への注意もしやすいという。記者自身、幼い頃から野球を続け、社会的な力を身に付ける一助になったと感じる。eスポーツでも現実と同様に、仲間とゲームでの勝利・攻略を目指す中で学べるものがあると納得した。

(辻孝典)

# eスポーツ人気拡大

対戦型コンピューターゲームで競う「eスポーツ」。2018年に「全国高校eスポーツ選手権」(毎日新聞社主催、サードウェーブ共催)が開幕。県内の高校でもeスポーツ同好会が誕生するなど人気が拡大している。

【菅健吾】

## 同好会誕生 野洲高校

県立野洲高校は20年7月、県内の高校では初のeスポーツ同好会を設立した。設立に関

わったのは顧問の小林太樹さん(40)と大畑雄紀さん(18)。

他部と掛け持ち

eスポーツ同好会員はバスケットなどの運動部と掛け持ちしており、練習は土、日曜日の午前限定。選手権には3人1チームで戦うサッカーゲーム「ロケッツボール」部の顧問と主将だったが、部員不足でなかなか試合に勝てずにいた。休み時間にスマホのゲームをする生徒をよく目にした小林さん。「バスケでなくてもゲームを真剣に取り組み、大会に出れば実績になる」と、大畑さんらバスケ部員



して野洲高には頑張っ  
てほしい」と期待した。